

Taiwan Radiology Congress 2025 (TRC2025) 参加報告

防衛医科大学校 放射線医学講座

野崎太希

2025 年 5 月 3 日(土曜)－4 日(日曜)にかけて台湾・台北にて開催された Taiwan Radiology Congress 2025 (TRC2025) に参加いたしましたのでご報告させていただきます。TRC だけではなく、今回が初めての台湾訪問となりましたが、現地では親日的な国民性をいろいろなところで感じとても有意義な経験となりました。

私は 3 日(土曜)午前の MSK のシンポジウム「MSK: Hand Wrist」において、先方からご依頼いただいた“New findings of triangular fibrocartilage complex on wrist MR imaging”というテーマで講演を行いました。やや専門的でマニアックな内容ではないかと心配しておりましたが、私の次に登壇された Wu H 先生も手関節靭帯を含む解剖中心の非常に専門性の高く深い内容のご講演でしたので、内容の整合性という点でも良い流れを作れたのではないかと少し安心しました。その後の質疑応答では、4－5 件の質問をいただき、英語が得意でない私は苦戦しましたが、なんとか意図をお伝えできていればと願っております。シンポジウム後半は、近年 IVR 領域でトピックスになっている運動器領域の疼痛に対する塞栓治療 Transcatheter-Arterial Micro-Embolization (TAME) の内容で、本邦の奥野先生がこの分野の英文論文をリードされており、演者のスライドの至る所に引用されていたことから、英文論文を発信する意義・重要性を再認識しました。

前日および当日の招待ディナーでは、香港の James Griffith 先生 (Asia musculoskeletal radiology [AMS] 前会長)にお会いでき、手関節 MRI に関する review article の共同執筆についてのお話をいただきました。(よく聞かれるお話ではありますが、)あわせて、「なぜ日本では MSK radiologist が少ないのか」ということも問われ、日本医学放射線学会の会員・代議員として今後ますます MSK 領域の教育・啓蒙に力を注ぐ必要性を感じております。

このような貴重な機会をいただきましたこと、JRS 理事会の先生方および事務局の皆様、心より感謝申し上げます。



大会初日の GALA dinner にて